

令和 3 年 5 月 25 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（特設分野研究）

研究期間：2018～2020

課題番号：18KT0032

研究課題名（和文）子どもの逆境と支援をめぐる多様な語りと子ども支援から見た社会の構想の研究

研究課題名（英文）Study on the idea for the society based on the support for children in adverse situation, on account of the narrative around this support

研究代表者

村上 靖彦（Murakami, Yasuhiko）

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：30328679

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,400,000円

研究成果の概要（和文）：2018年度から20年度にかけて毎年1回ずつ3回、80人から180人を集める大きなシンポジウムを開催し、ゲストとして、荘保共子氏、上間陽子氏、武輪敬子氏、向谷地生良氏、池松真穂氏を招聘して、子育て支援のとりくみとナラティブ（語り）の重要性について論じてきた。メンバーの何人かはイギリスで社会福祉法人を視察し、その成果を弁護士会館などいくつかの場所で報告するとともに、海外の取り組みについてのパンフレットも作成した。また3年間定期的にメンバーの中での研究会を開きお互いの「子ども子育て支援とオラリティ」に関する研究発表を積み重ねてきた。その成果は、明石書店から出版される予定で現在準備中となっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子ども支援子育て支援については量的研究の蓄積はめざましいが、逆境やその支援は個別的な経験でもある。その個別性に焦点を当てるための個別のナラティブの研究としてパイオニアとなる試みであった。その成果として学術的にはメンバー全員による共著の出版の計画が進んでおり、またそれぞれのメンバーの学術論文および単著によって成果が示されている。また、社会的には社会的に孤立した子どもや女性に焦点を当ててその支援の必要性を訴える企画のうち、その成果が雑誌で特集されるなどのアピールを行うことができた。またピアサポートの仕組みについてのパンフレットなども作成し、社会貢献も行っている。

研究成果の概要（英文）：From 2018, we held three large symposia, one each year, attracting 80 to 180 people, and invited guests such as Kyoko Shoho, Yoko Uema, Keiko Takewa, Seira Mukoyaji, and Maho Ikematsu to discuss the importance of childcare support and narratives. Some of the members visited social welfare corporations in the U.K. and reported on the results of their visit at several places, including the lawyers' Hall of Japan, and also prepared a pamphlet on overseas initiatives.

In addition, for the past three years, the members have been holding regular study meetings and have been presenting their research on "child-rearing support and orality" to each other. The results are now being prepared to be published by Akashi Shoten.

研究分野：現象学

キーワード：社会的養護 子育て支援 ナラティブ 地域 ピアサポート

1. 研究開始当初の背景

虐待を始めとした子どもが会う困難は大きな社会問題となっている。たとえば、2015年に児童相談所の相談件数は10万件を超えた¹。虐待による一時保護は、2004年に6214件だったものが2013年に10105件となっている²。もちろん虐待以外にも貧困、いじめや不登校、あるいは障害や病など、子どもが傷つきやすい存在であることとかかわる社会的課題は数多い。そしてこれらの逆境は「孤立」すなわち「語り合いの不在」を抱えることになる。他方で、子どもに関わる支援にもさまざまな職種があり多様な活動がある。児童相談所が子どもの安全の確保を目指すほか、社会的養護のための公的施設がある³。そして政府が児童養護施設ではなく里親への委託を推進する方針を決めたことも記憶に新しい⁴。もちろん保育園、幼稚園、小学校、中学校の教諭は困難な境遇にある子どもの重要な「支援者」である。他にも、拡がりつつある子ども食堂をはじめとして子どもや親を支援する民間組織も数多い。これらの支援はすべて「子どもとの語り合い」をどのように作っていくかという点で共通の目標を持つ。子どもをめぐる困難と支援については幼少期の逆境の影響を追った米国の大規模な調査であるACE研究(Felitti 1998, Dube 1999)をはじめとしてさまざまな研究がなされているが、多様な支援を横断的に捉える研究は数が少ない。そしてそれぞれの子どもや親の多様さと支援の多様さから考えて量的経験によっては捕まえきれない、それぞれの支援のもつナラティブな特徴がある。さらにこの主題は、福祉学、心理学、社会学、教育学、哲学といった多様な学問領域を横断している。医療社会学者Bryan Turner (2006)は傷つきやすさを中心概念にして虐待・性差別・戦争などといった諸問題を横断的に考察する視点を作ったが、そこに照らしたとき、子どもの考察は弱さを持った人を支えることが可能な社会のネットワークをどのように作り上げていくのか?というより大きな問いへと直結している。そしてこのネットワークはとりもなおさず語りのネットワークであり、オラリティと社会の問題である。子どもの傷と孤立からみたときに、社会はどのように見えるだろうか?傷も支援も言葉あるいは言葉の不在とともに形作られる。そして支援は1対1のカウンセリングに収まるものでもないし、衣食住を満たすことだけでも十分ではない。そして画一的なマニュアルで支援が語れるはずはない。つまり「子どもの傷と支援」を考えることは、個別の語りをもとにして複雑に絡み合う実践知を描き出すことに他ならない。つまり多様なオーラルコミュニケーションと行為論を含みこんだ社会を(子どもという視点から)描き出すことができるのか?という問いに直結している。そして子どもを中心として考えることで「仲間の弱さをカバーする動物」としての人間のありかたが見えてくる。

2. 研究の目的

本研究課題は、多様な組織・支援者にまたがりかつ多様な学問領域を横断する子どもの支援について、参与観察とインタビューを通して実践と経験を採集し、個別の事例それぞれの構造化とその比較検討をし、子ども支援をめぐるナラティブの具体的個別的かつ総体的な像を描き出すことを第1の目的とする。そして第2の目的は今しばらく活動している支援者たちが相互に情報交換し議論し合うことでより緊密な支援のネットワークを作ることができるような語り合いの場を作り出すことである。

3. 研究の方法

研究の方法論はまずは参与観察とインタビューを中心として、オーラルなデータを採取するとともに、言葉になりにくい経験や実践の姿を採取していく。そのうえで、現象学やエスノグラフィといった個別の事象を微細に分析する方法論を用いていくことで、個別の経験のリアリティを保存しつつ、多様な経験構造をつないでいくマップを作る。

4. 研究成果

子ども支援子育て支援については量的研究の蓄積はめざましいが、逆境やその支援は個別的な経験でもある。その個性性に焦点を当てるための個別のナラティブの研究としてパイオニアとなる試みであった。その成果として学術的にはメンバー全員による共著の出版の計画が進んでおり、またそれぞれのメンバーの学術論文および単著によって成果が示されている。また、社会的には社会的に孤立した子どもや女性に焦点を当ててその支援の必要性を訴える企画のうち、その成果が雑誌で特集されるなどのアピールを行うことができた。またピアサポートの仕組みについてのパンフレットなども作成し、社会貢献も行ってきている。2018年度は7月後半の交付金受給後実質半年間の活動期間だった。8月24日にキックオフの会議を行って今後の方針を決めるとともに、各自の研究内容を共有した。その結果、(1)公開の研究会の開催によるオラリティを軸とした子ども支援・子どもの逆境についての研究推進、(2)研究成果の発表、(3)現場の視察及び研修会の開催を決定した。(1)については30年度の研究成果をもとに5月25日に初回を法政大学にて開催し、順次開催していく。(2)については2月24日に大阪市東成区民センターにおいてこどもの里の荘保共子さ

んをお招きし、科研メンバーの村上・久保・永野が登壇する形でキックオフの公開シンポジウムを開き、約 80 名の来場を得た。また、メンバーそれぞれが複数の論文投稿及び学会発表を行っている。(3)については 11 月 25 日に神戸市塩屋地区の神戸少年の家、ワンズハウスといった複数の児童養護施設・乳児院を訪問し、地域における社会的養護の実践について学んだ。また 12 月 3 日に大阪市西成区のこどもの里とにしなり こども食堂を訪問し、やはり地域における社会的養護の取り組みについて支援者からレクチャーを受けた。

また研究協力者の野坂と酒井とともに、村上は大阪市内の養護施設の研修プログラムの運営に参加するとともに、高知市児童相談所の研修運営およびケース会議に参加している。

さらに科研メンバーのうち村上・久保・永野・佐藤は、子ども虐待防止学会においてそれぞれシンポジウムの組織、研究発表を行い、研究成果の公表を行ってきた。

2019 年度は研究会を 4 回とシンポジウムを 1 回開催した。5 月 25 日の研究会においては、研究分担者の遠藤、澁谷による発達障害をめぐるオーラルを重視した研究発表会を法政大学で行った。8 月 5 日には共著の準備のため各自の執筆計画を討議した。10 月 13 日には久保と研究代表者村上で行ったイギリスにおける里親支援を中心とした視察を報告する研究会を大阪弁護士会において行った。12 月 14 日の研究会では遠藤と大塚による発達障害の子どもを持つ母親へのインタビュー分析を中心に研究会を行った。

2 月 9 日のシンポジウムでは琉球大学教授上間陽子氏と奈良女子大学武輪敬子氏をお招きして若年出産をした女性をめぐる研究について討議し、100 名弱の聴衆を集め、多くの支援者との交流を図ることができた。3 月にはメンバーの数名がイギリスの高校の視察を行う予定だったが、コロナウィルスの影響でできなくなった。

シンポジウムにおいては琉球大学教授上間陽子氏、奈良女子大学の武輪敬子氏をゲストに招いて十代の妊娠出産した女性の状況と支援をめぐるシンポジウムを大阪大学において行った。

2020 年度新型コロナウイルスの影響で、予定していた研究会が開催できなくなりまた内外の取り組みの視察もできなくなってしまい、研究については計画の大幅な変更を余儀なくされた。

10 月 24 日に浦河べてるの家の向谷地生良氏、池松麻穂氏を大阪市西成区にお迎えし、NPO 法人こどもの里の荘保共子氏とともにオンラインシンポジウムを開催するとともに、向谷地氏は当事者研究のワークショップや講演も開催した。

当初、京都の大学フォーラムを利用して大規模のイベントとする予定であったが不可能になったものの、当日はオンラインで 180 名を超える視聴者が参加し、またシンポジウムの模様は、『看護教育』2021 年 2 月号、pp.146-156 において「地域での子育て 誰も取り残されない社会の作り方」「こどもの里」と「べてるの家」が「出会うとき」というタイトルで特集記事が組まれた。そのため研究活動の広報及び社会貢献としても積極的な意義を持ったと言える。

また、科学研究費補助金研究 3 年間の成果として明石書店から研究代表者・分担者全員による執筆で書籍を出版予定であり、すでに原稿は出版社に提出済みで、現在編集の作業を行っている。

1 章「笑いと共に感:発達障害傾向にある幼児の母親コミュニティの機能」(大塚類)、2 章「生き生きとした母親の語りから強さを読み解く」(遠藤野ゆり)、3 章「社会的養護のもとで育った若者たちが『語る』ということ」(永野咲)、4 章「地域の『すき間』を埋める子どもの居場所づくり」(佐藤桃子)、5 章「放課後と居場所:放課後等デイサービスから考える」(渋谷亮)、6 章「にしなり こども食堂を作るきっかけになった A 君について」(村上靖彦)、7 章「1.1.施設の混乱と言葉の回復」(久保樹里)という章立ての予定で、令和 3 年度中の刊行を目指している。また、研究代表者の村上は調査先の支援者のナラティブを分析した子育て支援に関する単著を 2021 年 4 月末に刊行した(『子どもたちがつくる町 大阪・西成の子育て支援』世界思想社、2021)。本書は、この科研で行ってきた研究のおもな成果をまとめたものとなっている。

今回の研究を通して村上と久保は大阪市西成区の子育て支援の団体や行政との連携を密にすることになり、今後も協働で研究及び実践を進めていくことになっている。また久保は支援者向けのラップアラウンドの研修を開始するなど、今回の研究課題と直結した形でやはり今後の実践を計画している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 yasuhiko murakami	4. 巻 48
2. 論文標題 L'abus des enfants comme implosion de la demeure ; Levinas, Agamben et le fondement de la democratie	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 divinatio	6. 最初と最後の頁 63-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上靖彦	4. 巻 22(6)
2. 論文標題 医療観察病棟で幻聴妄想を聞く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神看護	6. 最初と最後の頁 556-558
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上靖彦	4. 巻 33
2. 論文標題 潜在的なSOSへの感受性 貧困地区の児童福祉から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 そだちの科学	6. 最初と最後の頁 57-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上靖彦	4. 巻 526
2. 論文標題 看護のなかの言葉たち	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 TASC Monthly	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上靖彦	4. 巻 86
2. 論文標題 甘えのケイパビリティ 大阪市西成区における母子訪問事業から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界の児童と母性	6. 最初と最後の頁 54-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murakami Yasuhiko	4. 巻 0
2. 論文標題 Phantasieleib and the Method of Phenomenological Qualitative Research	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 New Phenomenological Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 95 ~ 104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-11893-8_8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上靖彦	4. 巻 2
2. 論文標題 支援者は生存を肯定し、変化を促す触媒となる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シリーズ人間科学	6. 最初と最後の頁 213-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保樹里	4. 巻 83(12)
2. 論文標題 「地域で困難を抱える子どもと家族を支えるためにー米国ラップアラウンドの実践を通して」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子どもと福祉	6. 最初と最後の頁 127-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保樹里	4. 巻 25
2. 論文標題 児童養護施設における養育力向上への試み 入舟寮におけるアタッチメントを重視したケアの実践を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪社会福祉士	6. 最初と最後の頁 2-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚類	4. 巻 37(2)
2. 論文標題 最たる超越 としての他者	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間性心理学研究	6. 最初と最後の頁 117-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚類	4. 巻 120
2. 論文標題 教育現象学的事例研究における真理 フッサールの思索を端緒として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田嶋柚里・遠藤野ゆり	4. 巻 17
2. 論文標題 学び合い』による他者関係の広がり～コミュニケーションが苦手な児童に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法政大学キャリアデザイン学部紀要	6. 最初と最後の頁 5-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤桃子	4. 巻 22
2. 論文標題 地域への架け橋 滋賀県における社会的養護の子どもの支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 滋賀社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永野咲	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 日本における当事者参画の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子どもの虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁 8-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上靖彦	4. 巻 44(3)
2. 論文標題 場と変化を支える にしなり こども食堂における母親支援を例にして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 329-334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上靖彦	4. 巻 20(3)
2. 論文標題 児童虐待を再生産する組織について 『スポットライト』(2015年アメリカ、監督トム・マッカーシー)をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもの虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁 334-338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚類・杉本卓	4. 巻 10
2. 論文標題 教育サバイバーの語りに関する現象学的分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青山学院大学 教育人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 125 - 135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚類・栗田宜明他2名	4. 巻 63
2. 論文標題 在宅医療患者の語りから探る希望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育研究	6. 最初と最後の頁 73 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚類	4. 巻 35(2)
2. 論文標題 小学校における自尊感情の基盤の育成に関する現象学的事例研究：学習支援ボランティアの経験に基づいて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人間性心理学研究	6. 最初と最後の頁 131 - 142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渋谷亮	4. 巻 46(17)
2. 論文標題 「動く世界を生きる 多動と注意についての考察」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保樹里	4. 巻 83
2. 論文標題 米国オレンジ郡に学ぶ家族再統合ーラップアラウンド導入の効果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 世界の児童と母性	6. 最初と最後の頁 61-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久保樹里	4. 巻 157
2. 論文標題 保育所における虐待がうたがわれる子ども・保護者への対応	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保樹里	4. 巻 31
2. 論文標題 ワシントン州における社会的養護を出た若者への自立支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子ども虐待の予防とケアのすべて	6. 最初と最後の頁 5823 - 5834
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永野咲、谷口由希子、長瀬正子、川瀬信一、アーウィン・エルマン、ジニー・キー、武田信子	4. 巻 20(2)
2. 論文標題 社会的養護の子どもの参加・参画をめぐって 当事者の声とそれを支える大人たちの役割	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもの虐待とネグレクト	6. 最初と最後の頁 180-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 久保樹里
2. 発表標題 米国における自立支援制度について」『社会的養護のもとで育った若者への自立支援
3. 学会等名 第7回 大阪社会福祉士学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保樹里
2. 発表標題 ラップアラウンド ピアサポート・パートナーに着目して」『社会的養護における当事者参画ー海外の取り組みから
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回ひょうご大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保樹里
2. 発表標題 「専門性構築のための日本の課題」『児童相談所児童福祉司の専門性、資格、育成の現状と課題
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回ひょうご大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久保樹里
2. 発表標題 アドバイザーとしてのかかわりから」『中核児童相談所設置のリアルー奈良市児童相談所切歯を目指して
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回ひょうご大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤野ゆり
2. 発表標題 自閉スペクトラム症の少年が未来イメージを抱けるようになるための支援方法 文章作成課題に関する事例検討
3. 学会等名 日本人間性心理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤桃子
2. 発表標題 ファミリーグループカンファレンスとネットワーク：北欧の実践より
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回ひょうご大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永野咲
2. 発表標題 特別シンポジウム「JaSPCANは当事者ユースとどのように協働すべきか」（企画・演者）
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回ひょうご大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永野咲
2. 発表標題 当事者ユースが選ぶサポーターティブ・アダルトとパーマネンシー・パクト」
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回ひょうご大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永野咲
2. 発表標題 当事者コースが選ぶサポーターティブ・アダルトとパーマネンシー・パクト」
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会第25回ひょうご大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村上靖彦
2. 発表標題 大阪市西成区を中心としてみた地域の子育て支援とTIC
3. 学会等名 子ども虐待防止学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上靖彦
2. 発表標題 大阪市西成区を中心としてみた地域の子育て支援の「図」
3. 学会等名 第4回地域で支える子どもの回復ネットワーク（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村上靖彦
2. 発表標題 西成における虐待へのとりくみ
3. 学会等名 第4回臨床実践の現象学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大塚類・遠藤野ゆり
2. 発表標題 「学びに向かう力・人間性」を育む小学校国語の授業研究：教師と児童が共に創り出す「共同の世界」という観点から
3. 学会等名 日本人間性心理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保樹里
2. 発表標題 児童養護施設における支援力向上の試みー入舟寮のアタッチメントを重視したケアの実践を通して
3. 学会等名 第6回大阪社会福祉士学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保樹里
2. 発表標題 児童相談所を内と外から支えるしくみを考えるー児童相談所スーパーバイザーとは何なのか？
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会 第24回 おかやま大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保樹里
2. 発表標題 家族再統合支援は本当に必要か ふたたびー米国ラップアラウンド方式から家族支援を考える
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会 第24回 おかやま大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保樹里
2. 発表標題 里親支援におけるライフストーリーワーク - 子どもの情報の引継ぎとセッション実施のためのアセスメント
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会 第24回 おかやま大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永野 咲、坂本 歩、日本当事者ユース、米国当事者ユース
2. 発表標題 アフターケアに向けた若者と大人の合意形成「パーマネンシー・パクト」の取り組み 当事者ユースを主体とした日本版開発にむけて
3. 学会等名 日本子ども虐待防止学会 第24回 おかやま大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永野 咲
2. 発表標題 社会的養護領域における制度策定過程への当事者参画ー北米におけるヒアリング調査から
3. 学会等名 日本社会福祉学会 第66回秋季大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 井部俊子、村上靖彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 226
3. 書名 現象学でよみとく専門看護師のコンピテンシー	

1. 著者名 遠藤 野ゆり、大塚 類	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 200
3. 書名 さらに あたりまえを疑え！	

1. 著者名 佐藤桃子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 全国コミュニティライフサポートセンター	5. 総ページ数 147
3. 書名 子どもと地域の架け橋づくり	

1. 著者名 井藤元他編著（大塚類）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ	5. 総ページ数 268
3. 書名 ワークで学ぶ学校カウンセリング』第9章「子どもを実践的に理解するってどういうこと？ - 学校における暴力のエピソードを手がかりとして	

1. 著者名 宇佐見 耕一、岡 伸一（佐藤桃子）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 430
3. 書名 新世界の社会福祉	

1. 著者名 宮本恭子 (著), 関耕平 (著) (佐藤桃子)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 今井印刷	5. 総ページ数 196
3. 書名 地域が抱える“生きづらさ”にどう向き合うか 山陰における福祉課題の解決とその実践 (山陰研究ブックレット)	

1. 著者名 小山真紀他8名 (大塚類)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 154
3. 書名 .生きづらさへの処方箋	

1. 著者名 村上 靖彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 270
3. 書名 子どもたちがつくる町	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://yasuhikomurakami.wixsite.com/kodomo-kaken

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渋谷 亮 (Sibuya Ryo) (10736127)	龍谷大学・文学部・准教授 (34316)	
研究分担者	永野 咲 (Nagano Saki) (10788326)	武蔵野大学・人間科学部・講師 (32680)	
研究分担者	佐藤 桃子 (Sato Momoko) (10792971)	高根大学・学術研究院人間科学系・講師 (15201)	
研究分担者	久保 樹里 (Kubo Juri) (10803679)	花園大学・社会福祉学部 ・准教授 (34408)	
研究分担者	遠藤 野ゆり (Endo Noyuri) (20550932)	法政大学・キャリアデザイン学部・教授 (32675)	
研究分担者	大塚 類 (Otsuka Rui) (20635867)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・准教授 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------